

金融機関の内部監査高度化に関する懇談会

2025年1月23日

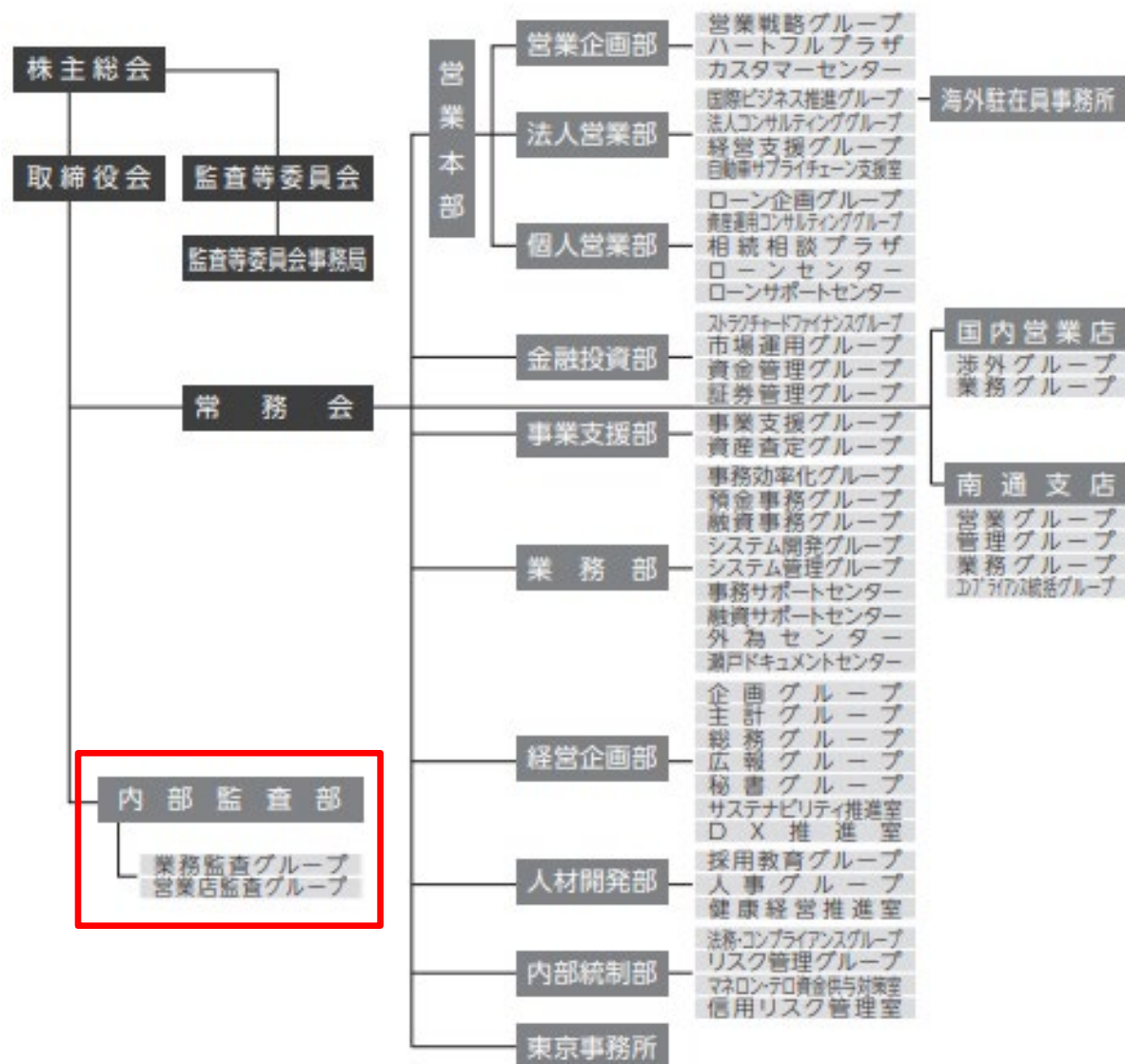
一般社団法人 第二地方銀行協会
(名古屋銀行)

1. 名古屋銀行の内部監査の現状と取組

2. 第二地方銀行協会加盟行の現状

1. 名古屋銀行の内部監査の現状と取組

○ 組織図



○ 内部監査の課題に対して、中期監査計画を策定し、継続的に高度化に取り組んでいる

○ 三つの論点からみた内部監査高度化に向けた取組事例

① 経営陣や監査委員・監査役による内部監査部門への支援

・ 内部監査報告会（毎月開催）

頭取・役員・各部の部長が全員参加する報告会のため、課題の共有、それに対する改善など積極的な意見交換ができ、被監査部署だけでなく銀行全体での多角的な課題解決につながっている。これが監査員のモチベーションアップにもつながっている。

② 内部監査部門における高度化に向けた取組

・ リスク・アセスメント

担当者は、週次で外部要因・内部要因の情報収集を行い、月次のリスク評価会議にて発表。

担当者の意見を基にリスク・アセスメントの見直しを行うとともに、個別監査の検証ポイントとして反映させている。

③ 被監査部門に対する取組

・ 監査トレーニー

営業店監査を通じ支店のリスクマネジメントを勉強する。

＜以下は、当協会の会員行のうち、一部の銀行へのアンケートを基に作成した＞

(1) 段階別の水準感と実務上の課題

① 金融庁公表のレポート事例等

- ・レポート事例は大変参考になる、レポート事例の公表により内部監査に対する経営陣の理解は深まっている。
- ・他方、レポート事例について、どの段階からステップアップするのに有効か等を示していただけると有難い。

② 各段階の水準感について

- ・第二段階と第三段階では大きな隔たりがあると感じる。
- ・高度化のためには同水準の銀行との情報交換や外部の知見の活用も必要。

③ 内部監査の高度化

- ・継続的に内部監査の高度化に取り組むためには、「人材育成」「リスクアセスメント」「IT活用」等の分野について長期的な目線で向上させていく必要がある。
- ・被監査部署との定期的な意見交換によりリスクオーナーシップの考え方の定着を図る必要がある。

(2) 内部監査の「目指すべき段階」

① 内部監査の目指すべき姿

- ・内部監査の重要性を認識しており、高度化に向けて取り組むべき。

② 目指すべき姿に近づけるためにレポート等にどのような内容が必要か

- ・「主要行」「地域金融機関」等の区分で情報開示を継続頂きたい。
- ・「リスクアセスメント」「オフサイトモニタリング」「品質評価」等の具体的項目に分類した開示や
管理方法・情報を提供頂けると有難い。

③ 第四段階のイメージ

- ・地域金融機関としての第四段階のあるべき姿やステップアップの方向性がイメージできていない。